

9月7日（日）主日礼拝レジュメ

「私たちのささげ物」ローマ人への手紙12章1節

「神のあわれみ」は複数形。神のあわれみには、さまざまな面がある。例えば、「不義によって真理を阻んでいる人々のあらゆる不敬虔と不義に対して、神の怒りが天から啓示されている」にもかかわらず、(1:18) そこから、人が救われるのは、ただ神のあわれみのゆえ。怒りに満ちた神のさばきが猶予されているのは、人を悔い改めに導こうとする神の慈愛のゆえ。「神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。」(3:24) とあるように、一方的な神の恵み。このようにして、神が罪ある人類に対して救いを計画し、それを成し遂げてくださったのは、神のあわれみ、恵み、愛のゆえであった。十分すぎるほどの、また驚くべき神のあわれみ、恵み、愛を受けている。

それを理由としてパウロは「あなたがたに勧めます。」と言う。「勧めます」というのは、確信と権威をもってパウロが勧めている。それは、神が私たちに対してこれだけの恵みを与えてくださっているのであれば、私たちが自らのからだをささげて生きるのは当然ではないかとの思いがある。

「あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。」とされています。パウロは、「あなたがたのからだをささげなさい」と言う。パウロは、このローマ人への手紙において、救われる以前の私たちのからだを、

① 「罪のからだ」(6:6) と表現し、罪に仕えていたからだ、

② 死の支配に服している「死ぬべきからだ」(6:12) と表現している。

③ 6章6節「私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減ぼされて」と言い、その罪のからだは減びた、

④ 8章10, 11節「キリストがあなたがたのうちにおられるなら（おられるので）、からだは罪のゆえに死んでいても、御霊が義のゆえにいのちとなっています。イエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリストを死者の中からよみがえらせた方は、あなたがたのうちに住んでおられるご自分の御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだも生かしてくださいませ。」罪のからだ、罪によって死ぬべきからだ、御霊によって生かされている、御霊によるいのち、新しいいのち、永遠のいのちによって、このからだが生かされている、ある意味罪からの救いを通して全く新しい自分に私たちは変えられた。だからこそ、罪との戦いに悩まされるのではなく、

⑤ そのような私たちは、これ以上「死ぬべきからだを罪に支配させて、からだの欲望に従」うのではなく（6：12）

⑥ 「私たちのからだは贖われることを待ち望みながら、」（8：23）その御霊によって生かされている、そのからだをささげなさいと言われて

いる。
もし仮に私たちが罪が支配するままにさせ、からだの欲望に従って歩むなら、私たちはキリストの十字架による贖いも、うちに住む御霊の働きもすべてを否定し、私たちが受けた恵みをも否定する生き方になってしまう。

⑦ 6章13節「あなたがたの手足を（欄外注あるいは「肢体」「五体」）不義の道具として罪に献げてはいけません。むしろ、死者の中から生か

された者としてあなたがた自身を神に献げ、また、あなたがたの手足を義の道具として神に献げなさい。」そして12章1節で「神のあわれみのゆえに勧めます。」これは、受けたあわれみ、受けた恵みをむだにしているといけない、あなたがたのからだ、自分の思考や感情、魂など自分の持てるものすべてを、あなたがた自身を神に喜ばれる聖なる生きたまさげ物としてて献げなさい。ということ。

さらに「聖なる、生きたまさげ物として」と言われています。ここでささげ物と訳されている言葉は、動物や穀物などの神に対するささげ物を指す言葉。「生きた供え物」と言われているのは、御霊により生かされたあなたがたのからだということ。「聖なるささげ物」との表現により私たちが聖なる者へと変えられていくことが期待されている。「神に喜ばれる」という言葉は、欄外注では、別訳「受け入れられる」とある。喜ばれるとか満足を与えるという意味。いけにえに関しては、神の定めた規定に従った、神に受け入れられるものでなければならなかった。まさに動物のいけにえではなく、自分のからだをそのような神に喜ばれる聖なる生きたまさげ物として献げなさいと言われている。

私たちが、数々の神のあわれみと恵みとを受けていることを今日もう一度おぼえさせていただこう。そのように数多くの恵みを受けている私たちがなすべきこと、また神への応答は、私たちの御霊によって生かされているからだ、自分そのものを神にささげて生きるということ。

私たちのからだは、うちに住んでおられる御霊によって生かされたからだであって、もはや私たちのからだは、罪に支配された死せるからだではないので、それが可能だ。

私たちは、神の救いの恵み、うちに住んでおられる御霊によって、私たちの死ぬべきからだを生かしてくださった恵みを決してむだにしない歩みをしたい。